

【背景・目的】

- 「ニッポン一億総活躍プラン」（平成28年6月2日閣議決定）において、「キャリアアップの仕組みを構築し、保育士としての技能・経験を積んだ職員について、現在4万円程度ある全産業の女性労働者との賃金差がなくなるよう、追加的な処遇改善を行う」こととされている。
- また、「保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ」（平成28年8月2日社会保障審議会児童部会保育専門委員会）においても、職員の資質・専門性の向上について、保育士のキャリアパスの明確化を見据えた研修機会の充実を図ることが課題とされている。
- これらのことを踏まえ、保育士が職務内容に応じた専門性の向上に目標を持って取り組めるよう、保育士のキャリアアップにつながる研修体系や研修システムの構築について検討する。

【調査研究の内容】

- 保育士のキャリアパスや研修体系に関する先行研究・都道府県等における先行事例の調査・収集。
- 有識者や関係団体等で構成する調査研究協力者会議を開催し、保育士のキャリアパスを構築するための研修体系及び研修実施体制について検討。
※4回開催予定。11月上旬までに研修体系について中間まとめを行い、研修の実施体制を含めた最終まとめを12月下旬までに行う。
- 調査研究協力者会議の最終まとめを踏まえたシンポジウムの開催。

<調査研究協力者会議の構成員> ※五十音順、敬称略

秋田 喜代美	東京大学大学院教授
小島 伸也	全国社会福祉協議会全国保育協議会副会長、認定こども園はりはら保育園園長
小林 澄子	群馬県総合教育センター幼児教育センター長
清水 益治	帝塚山大学教授
那須 信樹	東京家政大学教授
西村 重稀	日本保育協会理事、仁愛大学名誉教授
平野 弘和	全国私立保育園連盟常務理事、岩根保育園園長
正垣 豊治	奈良県健康福祉部こども・女性局子育て支援課長

調査研究協力者会議における主な検討事項

【研修の体系化について】

- 現在、各都道府県で内容が区々である、一般から中堅の保育士を対象とした研修について、保育現場で必要な専門性や研修事例等を踏まえ、望ましい研修内容等を検討。
- 研修時間数、修了要件、研修講師の資格等についても、併せて検討を行い、シラバスの案の形で成果物をまとめることを目指す。
- これらの研修の修了を、将来的にはキャリアアップの仕組みにつなげていくことも見据えて検討。

【研修システムの構築について】

- 現在の研修の実施状況や研修の対象者数等も踏まえ、研修の実施主体、実施方法等について検討。
- 子育て支援員研修等の先行事例を参考に、研修内容・質の確保のための方策(国の定めたシラバスに合致するかの認定の仕組み等)について検討。
- 修了者の情報(修了者名簿等)の管理等について、将来的にキャリアアップの仕組みにつなげていくことも見据え、どのように行っていくことが適切かについても検討。